

なほ

1月号
vol. 191



謹賀新年 卯

〔撮影協力〕

GCC Kids インターナショナルスクールのみなさん

おどろきの
社会科

特集

第11講 歴史 — 津守浦



古代大阪の盛衰を見届けてきた住吉大社。かつては社殿の目前に海が広がっていた

おとなの 社会科

第11講 歴史 —— 津守浦

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

歌に揺られて

古の歌の響きに誘われて、今ひとたびの旅に出た。阪神高速堺線の薄暗い高架下を、津守から住吉大社に向かってゆらゆらと歩く①。

この一帯には、古代から近世にかけて、津守浦または住吉浦(※)と呼ばれる美しい海が広がっていた。江戸中期の1698(元禄11)年に津守新田が開かれるまでは、この高架下の辺りが海岸線だったという。木津川からの風に耳を澄ませば、大型トラックの砂埃と騒音に混じって聴こえてくるのはこんな歌。

「住吉の津守網引の浮子の緒の浮かれか行かむ恋ひつつあらずは万葉集に収められた、詠み人知らずの歌である。津守浦の陽射しの中で、漁師が網を引いている。網が沈まないように付けられた浮子の紐のように、漂いながらど

神功皇后と津守氏

縄文時代の大阪は、岬のように突き出た上町台地を除いて、ほぼ海の底に沈んでいた。そこへ淀川や大和川の土砂が徐々に堆積し、台地に沿って陸地が拡大する。古墳時代には大阪平野が形成され、現在の西成区・住吉区の大部分も陸地となった。

津守から住吉にかけての海は、神功皇后による三韓征伐の伝承と深く結び付いている。神功皇后は航海の守護神である住吉大神の神託を受け、西暦211年に朝鮮の新羅を攻め落とし平定。次いで百済と高句麗も服属させた。その凱旋の途中、随行していた田袋見宿禰という豪族の進言で、現在の住吉の地に祠を建てて住吉大神を祀ったのが住吉大社の起源だ②。

田袋見宿禰の一族は住吉周辺の海洋貿易を支配しており、後に



昔の海岸線に沿う阪神高速堺線。津守2丁目から住吉方面を望む

こかに行ってしまうのか。これ以上、辛い恋に苦しみ続けることがないように。

旅の行く手に、悲しみを歌に託した男の孤独な後ろ姿が浮かび上がる。その背中を追いかけるうちに、いつしかこの世の果てへと彷徨い出て、葦の生い茂る太古の海辺に辿り着くのである。

応神天皇から「港(津)を守る者」を意味する津守の姓を授かった。以後、津守氏は明治時代まで住吉大社の神官を務め、多くの歌人も輩出する。津守という地名は、この津守氏から取られた。

津守氏が管理する住吉津は住吉大社の門前に位置し、313年に仁徳天皇が難波の高津宮に遷都すると、難波津と共に大和朝廷の港として開港。朝鮮半島や大陸から多くの交易品が渡来する海の玄関口として、4〜5世紀頃に最盛期を迎えた。

航海と和歌の神

630年に国家事業として遣唐使の派遣が始まり、住吉津と難波津が発源地となる③。一行は住吉大社で道中の安全を祈願し、住吉大神を船の触先に祀ってから出航した。

「住吉に齋く祝が神言と行くとも来とも船は速けむ」



2019年に建立された、住吉大社の「遺唐使進発の地」碑

危険さや唐の国力低下を理由に、894年に廃止された。

「住吉の岸の松が根打ち晒し寄せ来る波の音の清けさ」

この詠み人知らずの万葉歌が描くのは、海岸の松を波が洗う情景。住吉津が衰退すると、住吉大社は航海の神よりも和歌の神として信仰を集めるようになる。当時、津守浦の渚には松林が伸び、白砂青松の景勝地として知られた。皇族や貴族たちはそうした風景をこぞって歌に詠み、神前に奉納したという。

住吉大社で見つけた万葉歌碑には、住吉を歌枕にした和歌の数々が刻まれており、飛鳥時代から続く歌人からの人気の高さが窺える④。

宮居して年もつもりの浦寂びて神代覚ゆる松の風かな
藤原良経が「津守」と「積もり」を掛詞にして詠んだ、鎌倉初期の津守浦の風景である。住吉の地に

かっただ悲しみをみる。さらに西へと進み、広大な平林貯木場を抜けた辺りで日が落ちた。やがて住所は南港東に変わり、南港フェリーターミナルに行き当たる⑤。夜の待合室は閑散としていた。平林は明治期、南港東は戦後に入ってから埋立地である。かつての住吉津からおよそ5キロ。近代に入ってから海はこれだけ遠くなった。

「住の江の岸に寄る波夜さへや夢の通ひ路人目よくらむ」

この歌も百人一首のうちの1つで、作者は平安前期の歌人である藤原敏行。人目を気にする必要のない夢の中でさえ、なぜ貴方は逢いに来てくれないのですか、と愛する人に語りかける。

古来、多くの人が海の彼方を夢見て住吉を発ち、ある者は異国の土を踏み、ある者は志半ばで波間に消えた。それもまた、夢の通い路というべきものであった。全

神が鎮座してから長い年月が経ち、津守浦もすっかり寂しくなった。松林の間を吹き渡る風が、神々が世を治めていた頃の記憶を運んでくる。住吉大社の賑わいと対照的に、住吉津の活気は遠い昔の話になっていったようだ。

それから800年。工場と住宅が建ち並ぶ現代の津守からは、松林も漁船も、潮の香りも消えた。今はただ、夢か現実かも不確かな伝承だけが、耳の奥で海鳴りのように響くばかりである。

遙かなる海の道

失われた津守浦を巡る旅は続く。住吉大社を発ち、南港方面に向かうトラックに追い抜かれながら住之江通を西へ。しばらく行

てを隔て、また結びつけもしてきた海。遙かなる幾筋もの海の道が、東アジアの白い夜の底に眠る。その道の上を、今は弾道ミサイルが飛び、日本と中国の軍艦が睨み合う。待合室の窓から暗い海を覗くと、闇の向こうに戦争の気配がした。

「月影の雲も津守の浦風になほ秋



住吉大社に建つ、17首の和歌が刻まれた万葉歌碑



夜の南港フェリーターミナル。九州の新門司港行きが出航を待つ

寒し住吉の浜」

旅の最後の歌は、鎌倉初期に編まれた『新古今集』から。遠い昔の秋の終わり、津守浦からの夜風が住吉の浜に冬の到来を告げる。それから月日は流れ流れて、まさに今、時は晩秋。コンクリートで固められた、かつてと同じように寒い浦風が吹く海辺に立ち尽くす。

フェリーが横たわる大阪湾の縁に立ってふりさけ見れば、くすんだ夜空に、全ての旅人たちの無事を祈るように月が輝く。千年の夜を越えて闇にぽっかりと穴を開けたような、円い、円い月である。

文責：福井龍磨・若松司

※古代の住吉は「すみみのえ」と呼ばれ、墨江・住江・住吉など多くの表記があった。平安時代に「住吉」すみのえの読み方が生まれ、「すみ」と併用されるようになった。両者の意味するところは同じである。



キモの食感と濃厚な味にゴマ油の香りと塩の相性は完璧としか言いようがない。これだけでビールが無くなってしまう。

そして、とり鶴当店のオススメでもある「地鶏のたたき」。少しレアな地鶏とオニオンライスにフライドガーリック、そしてきざみネギを少々。これをよく混ぜて、全ての具材を一度に食すのがミソだ。これが本当においしいので、ぜひ注文してほしい。

さて、やき鳥屋さんに来て焼き物の注文を忘れてはいけない。やきとりは炭火でじっくりと焼かれた鶏肉の旨味とタレのハーモニーがたまらない、とり鶴の味である。本当なら手作りつくねや砂ずりに手羽焼きなども注文したいのだが、今日は一人で食べきれないので泣く泣く諦めることにした。

そして締めである。私は玉子スープと焼きおにぎりのコンビが定番だ。熱々のスープに半熟の卵がとろけて、濃厚な鶏の出汁はお酒を飲んだ後にピッタリの優しい味である。そこにパリパリの焼きおにぎりを頬張ると、得も言われぬ多幸感に包まれる。その他に「とり雑炊」や「鳥スープの湯豆腐」などもあるので、自分の定番の締めメニューを探してほしいだろう。

また、とり鶴は焼酎や日本酒にもこだわりのある。旬などを考慮した品揃えなので、料理との相性は抜群だ。

マスターとママには、子どもならではの可愛らしい頃や中学生の反抗期真っ只中の生意気な頃も知られているので、取材中に「もう34歳になったんか〜」

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

家族の思い出とともに 「やき鳥とり鶴」

はじめてこのお店に来たのは、いつだったろうか。小学校に上がる前から家族でよく来ていた記憶がある。小さい時に父と母が「やき鳥行こか〜」といえはこの店だった。自分の金で飲みに行くようになるまでは、やき鳥はここ以外に行つた記憶がない。

ということで今回は筆者の思い出のお店、津守商店街にある「やき鳥とり鶴」をご紹介します。とり鶴は今年で32年目を迎えるお店。正直な話、とり鶴には数えきれないほど通っているのですが、食べにいかなくても原稿は書いてしまいが、やはりお店で食べないと活きた原稿は書けないので、お店に行かなくてはならない(食べたかった)。

今日は取材なので、個人的なオススメを注文することにしよう。まずは「鳥キモつくり」である。タレは醤油、ごま油塩、ニンニクダレの3種から選ぶことができるが、私はごま油塩派である。



と笑いながら話してくれた。「次は久しぶりにオトンとオカンを誘って一緒に来ようかな」と昔に家族で来たときの思い出に浸りながら店を後にした。

文責：山村裕太



やき鳥とり鶴
住 所：西成区津守1の4の16
営業時間：17時〜23時
定休日：毎週木曜日・第3水曜日
※2022年は木曜日のみ定休日
電話番号：06-6567-6018



[沖田一志] 仕事用携帯に架空請求の電話がかかってきた。自動音声の次にオペレータが生年月日と名前を尋ねてくる。仕事用携帯なので、つい真面目に対応してしまつた。不審な電話に注意です。



[田岡秀朋] W杯の裏で移民労働者、LGBTQ差別など人権デューデリジェンス的に問題ありと欧州各国は声を上げた。FIFA会長は欧州の姿勢はダブルスタンダードと揶揄もしたが、人権をないがしろにした成功はない。



[谷口円] 新しい年になると新しいことを始めたい。そんな気分は日常に押し出されてどんどん薄れていってしまうので、できるだけ早いうちに取り組み始めたいところ。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのお気軽系コラム。

『走って走ってランラン♪』

多くのスポーツが基礎練習の一環でランニングをする。私は中学までスポーツ系の部活に所属していたが、このランニングが大嫌いだった。走っていると息が切れてきて、「歩きたい・止まりたい」という気持ちが出てくる。出てきていた。高校時代、冬になると体育の授業でマラソンがあり、3kmを20分以内で走らなければ補習という鬼のようなものであった。嫌いだからなのか、体力がないのか、根性が無いからなのか、理由は不明だが真面目に出席していたにも関わらず、バッチリと補習を受ける羽目になっていた。

最悪だったのが年1回のマラソン大会である。長居公園周辺10kmを走らなければならない、もちろん走り終わるまでは帰ることができない。最終手段で先生にバレないようショートカットで距離を誤魔化しやり過ごしていた。

ここまで読むと、今回のテーマは「ランニングが嫌いな話」かと思われ、もしかしたら、そうではなく、「ランニングが楽しい話」である。あれだけ学生時代に嫌いだったランニングが今は楽しくてしかたがないのだ。

私は基本的に飽き性で三日坊主に終わることが多いが、現時点で4ヵ月ほど継続できている。始めたきっかけは、イライラが多かったので「体を動かせばスッキリするかな？」程度のものだった。いざ走り出してみると300mほど走っただけで息が切れ、すぐに歩いてしまった。とりあえず1kmだけでも頑張ってみようと思い、ペースを落としながらもなんとか走りきれた。終わってみると、なんとなく爽快感がありスッキリとした気分になった。2週間ほど続けていると、ランニングシューズが欲しくなると1万円ほどの物を購入してみた。ランニングシューズとはすごいもので、地面を蹴るとグンッと前に進む感じで、こんなにも走るのが楽になるのかと驚いた。

今は週3〜4回のペースで平均3kmほど走っているが、続けていくにつれてペースも自然に上がってきた。

高校のときは3km20分を切ることはできなかったのに、18〜19分で楽に走れるようになった（それでも遅いが）。まさか大人になって、高校生のときの体力を上回るとは思わなかったが、この結果でモチベーションが

かなり上がったのは事実である。人間とは不思議で継続していると興味も出てくる。色々調べると、ランニングで脳のセロトニンが分泌され、自律神経が整い、気分が落ち着く効果があることがわかった。新陳代謝も向上し、太りにくい体をつくることもできるのだ。正に良いこと尽くしで、もはや走らない理由がない。

さて、ここまで読んでみなさま、少しランニングを始めてみようかと思っただけではないだろうか。そうであれば私の狙い通りである。最近、色々な人に一緒に走ろうと声をかけているのだが、「ヤダ」と断られてしまう。「ヤ」なのはランニングなのか私なのかかわからないが、やってみようと思った方はぜひお誘いいただきたい。そして文末で気付いたのだが、このコーナーは匿名コラムなのだ。

ハンブレイ・T



【安田拓也】今年はどこまでメダルを漕ごうか。岡山とかいう滅茶苦茶な案が出ている。余裕を持って姫路や赤穂で泊まるか。走りも良いが、観光も捨てがたい。欲張りなプランになりそう。



【福井龍磨】実家は東京の端で、少し歩けば埼玉に入ってしまう。ある時、両親とはある事情で戸籍だけ埼玉県民になり、数年後にまた都民に戻った。国境の近くでは、街も人も常に揺れ動くのである。



12月は学期最後のイベント「クリスマスパーティー」にむけて園児たちは大忙し☆ ツリーに飾るオーナメントやジングルベルづくり、サンタさんの似顔絵など、素敵な作品ができました♪ 思い出に残るクリスマスになりますように☆



たぐの 3くふうたま

豊 間

記憶の再生ボタン

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

昨年夏に開館した「こども本の森 中之島」を訪れた。施設は決して大きくはないが、滞在した1時間半はあつと言間だった。図書館の様に本の貸出しはないが、館内や中之島公園内での読書は自由。子ども達が本の世界に興味をもち、その好奇心のままに時を過ごせるよう、様々な工夫が散りばめられていた。

1〜3階を吹き抜ける壁一面に本棚が配され、まさに本の森。一つとして同じ色のない葉や木々に興味は尽きない。新たな施設ながら、並ぶ絵本なんかを見ると「なつかしい」と記憶が再生される。大人と子どもとは、驚くほどの身長差と態度の違いがある。きつと彼らにとって吹き抜ける渡り通路は大きな吊り橋で、読み聞かせが行われた広い階段は大きなホール。時に坂の町に惹かれたりするが、地形は特別で変れないものとして記憶が住み着き、訪れると懐かしさを感じる。この場所も本のストーリーとともに、森の命のように何百年・何千年と受け継がれていってほしい。

【URL】<https://kodomononori.osaka/>

(安田拓也)



壁一面の本棚と大階段



【西原夏美】Friday Night Funkin(通称:FNF)というPCで出来る音ゲーがあるんですが、いい曲が多いんです。譜面は難しいものが多いのですがストーリーがあったりして楽しめるゲームです。



【西田吉志】新年あけましておめでとうございます。年末は「健康」に悩まされることに…。自分自身とみなさまのご健康を心よりお祈りし、今年も頑張っています。どうぞよろしくお祈りいたします。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「オキザリスの葉っぱ」の巻

今日は雨。

嫌いじゃないけど好きでもない。

びしょ濡れのわたし。

風邪は引かないけど気持ちはわるい。

考えるわたし。

仕方ないけどこのままじゃダメ。

悩むわたし。

緑もいけど紫がもったいい。

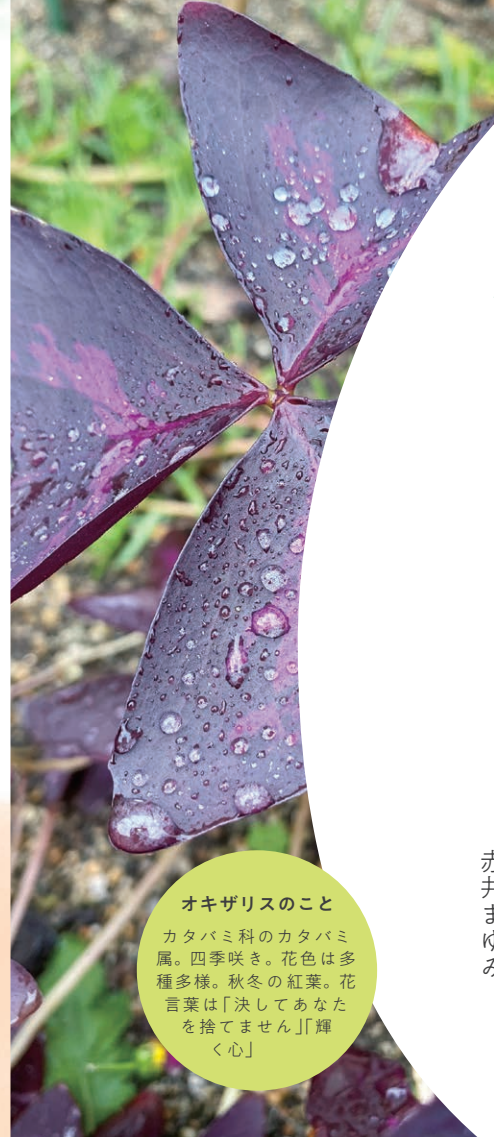
笑顔のわたし。

明日は晴れる。ぜったい晴れる。

赤井まゆみ

オキザリスのこと

カタバミ科のカタバミ属。四季咲き。花色は多種多様。秋冬の紅葉。花言葉は「決してあなたを捨てません」「輝く心」



い湯がげん



水平社二〇〇年の時空を超えて⑩ まちづくりを提唱

このシリーズもいよいよ最終回となりました。

1951年6月、松田喜一は浪速地区の公民館と診療所設置を求めて要望書を出しました。当時、青少年のヒロポン中毒とその被害は深刻な状況で、かれらの生活改善のための施設を求めたのです。大阪市教育委員会も「腹藏のない」懇談会を持ちたいと松田喜一に声をかけました。そこで、市の幹部は考えを述べたのですが、「民主教育さえやっていけば同和教育になる」とか、「施設をつくれば」かえって寝た子を起こすのではないかとかというもので、松田喜一は激しく反論しました。最終的にこの要望は文化会館と若原病院の建設として実現しました。

翌52年5月には大阪市立南中学校で、「お前の家はヨッだ」と子どもが差別される事件が起こりました。被

害を受けた子の親は滋賀県出身で、大阪に行けば部落という身元を隠せるはずと思っていましたので、強いショックを受けました。この事件が起こった2ヵ月後の7月、大阪市同和事業懇談会が開かれ、ここで松田らは腰を据えて「寝た子を起こす」か否かの論争を展開しました。市の幹部は「同和予算と言わずに事業をやるのが良い」と論を張りましたが、松田らはこれを説得し、ついに市も認めました。

この2年がかりの「寝た子論」をめぐる論争の末、53年2月に大阪市同和事業促進協議会(市同促)が結成されました。松田喜一は、戦後の「寝た子を起こすな」意識が相当に根強いこと、また、このままでは「戦後民主化」は部落問題を素通りしてしまうことを痛感し、そこに戦前の水平社運動を持ち込んでも、空回り

してしまっただけだと心配していました。そこで、熟考の末、松田は市同促を結成して「新しいスタイルの運動」を定義したので。しかし、問題は簡単ではありませんでした。当時部落の中には、戦後復興で都市化が進み、部落の形態が様変わりし始めていることに幻想を持つ人もいました。松田の偉いのは、そんな人たちが市同促に参画させたことでしたが、同和行政のあり方をめぐって合意を形成していくには、部落の中でも大変な努力を要しました。

松田は、市同促に「運動団体」「事業団体」「まちづくり団体」という三つの役割を構想していました。次第に「運動」は解放同盟、「事業」は市同促と役割を分担して、車の両輪のような関係になりました。そこで、松田は、いよいよ部落に「全町的協議会」というまちづくり組織を広げ、「生活の立て直し」と名づけて民主的権利を実現していこうと奔走

しました。松田の「運動」「事業」「まちづくり」の三位一体論は、いま考えても先見がありました。が、当時は「新手法の融和主義」ではないかとの誤解もあって松田は苦労したようです。そして、松田は、同対審査をみることなく1966年に亡くなりました。

水平社二〇〇年の時空を超えて、いま、松田が構想した「まちづくり」は、その後、解放同盟府連や西成支部によって引き継がれましたが、紆余曲折を経てもまだ進行形です。

（寺本良弘）

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



[若松司] 昨年ここで書いていたことを読み直してみた。後半は個人的な愉しみに触れることが多かった。たしかにそうだった。今年もその流れを維持して、できれば飛躍を。卯の年ですね。



[山村裕太] 冬が苦手です。寒いとイライラするし、外に出るのが億劫になってしまいます。ただ、寒いときのタバコってなんであんなに美味しいんだろう。

地域の縁を心でつなぐ

心の時間



松向寺

27年使い続けてきた私の腕時計は、結婚を機に義父から「大切に使うて欲しい」と渡された時計です。嫁ぐ娘への思いが込められたこの時計、今はお金には代えられない「形見」となりました。

「お米の中に仏様がいらっしやる」。私たちは「もの」の中に目に見えない大切な「こと」を感じる日常を大切にしてき

ました。実際、顕微鏡で覗いても仏様はおられません。が、私に届いたお米に込められたご苦労やご縁が、私を生かしてくださる「力（仏様）」になっているのです。多くの「もの」がお金で買える社会となりましたが、「もの」で自分の欲を満たした結果、大切な「こと」を感じるアンテナが鈍ってはいませんか？この世は諸行無常です。ただ、目に見える「もの」が変化し続けるさまを見て、「虚しい」と言っても仕方ありません。見えない「もの」を見つめる眼に「虚しい」人生と決別する「智慧」が秘められています。

今年も見えない「糸」で繋がっている「あなた」と出会うために著します。拙文に大切な「こと」を感じて頂けたら幸いです。

松向寺 通法

ココドコ

ココはドコ？
わたしはゆ〜れ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

新年なのでサービス問題！屋根がある通りといえば…？その中でツルビーから連想される場所は…？ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は1月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 鶴見橋1丁目17-11の老人ホーム「ミヨ倶楽部花園III番館」でした！記憶に残るデザインですね。



2022年8月撮影

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび1月号(vol.191)
発行日:2023年1月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あるいはお願)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

